

地域鉄道の維持・活性化についての提言

近畿ブロック知事会

令和4年8月

地域鉄道の維持・活性化について

地域鉄道は、地域住民の通学・通勤などの移動手段として重要な役割を担うとともに、産業や観光など地域の経済活動の基盤であり、少子高齢化や地球環境問題への対応等の観点から、その活性化が求められている。

しかし、人口減少や自家用車の普及などに伴い、地域鉄道の利用者は長期的に減少傾向であるのに加え、今般の新型コロナウイルス感染症の影響により、さらに大幅に減少し、鉄道事業者はこれまで以上に厳しい経営状況となっている。

こうした状況を受けて、JR西日本が、本年4月に地域と各線区の実態や課題を共有し、より具体的な議論をするため、輸送密度2,000人/日未満の線区の経営状況を公表するなどの動きがみられる。

沿線地域の中には、持続可能な公共交通機関を目指して、地元自治体や鉄道事業者、地域の住民や企業等が連携して、利便性の向上や利用の促進に向けた取組を進めている地域もあるものの、抜本的な改善には至っていない。

以上の状況を踏まえ、国においては、地方の重要なインフラであるJRローカル線を含む地域鉄道が、地域の活性化のみならず持続可能な社会の実現に果たす役割に鑑み、次の事項について特段の措置を講じられるよう提言する。

1 国の交通政策の根幹としての鉄道ネットワークのあり方

- (1) 地方の重要なインフラであるJRローカル線を含む地域鉄道が、地域の活性化のみならず、持続可能な社会の実現に果たす役割に鑑み、地方の切り捨てとならないよう、国において維持等に向けた方針を示すこと。
- (2) 将来にわたり地域鉄道が持続的に運営できるよう、国土強靱化や国土の均衡ある発展などの観点から、国が鉄道事業を重要な社会インフラとして明確に位置付け、強力な財政支援を含め、鉄道の活性化・再生に向けた県、市町、鉄道事業者等による協議段階からの積極的な国の関与や地域と連携協力できる体制の構築、鉄道事業者の経営状況等に関する情報開示やチェックのルール化など、国の責務において、全国の鉄道ネットワークの維持・活性化に必要な対策を早急に講じること。

とりわけ、地域鉄道の維持・活性化を担っている地方自治体に対し、地域鉄道ごとの実情を勘案しながら新たな支援措置を講じること。

加えて、JRを含めた鉄道事業者が実施するイベント列車や駅周辺施設による観光誘客等、地域鉄道の維持・活性化に資する取組について、多様な財源の活用がなされるよう仕組みの検討を行うこと。

2 JRを含めた鉄道事業者の経営基盤の安定化への支援

地元自治体、鉄道事業者、地域住民や企業等が連携して実施する維持・存続に向けた取組に対して必要な財政支援等を行うこと。

3 鉄道廃止に係る仕組みの検討

鉄道事業の廃止は、届出により可能となっていることから、国において、事業者が鉄道事業の廃止や運行計画の変更をする際に、地域の同意を得ることなど、地域の実情が反映される仕組みを検討すること。

4 国鉄改革の趣旨や社会情勢の変化を踏まえた JR ローカル線の適切な維持及び利便性の高い地域公共交通サービスを確保する仕組みの構築

国鉄改革時には、不採算路線を含む事業全体での採算確保を前提とした制度設計が行われた経緯やその後の社会情勢の変化を踏まえ、利便性の高い運行計画の変更を促す仕組みや収益の内部移転を明確にする仕組みの検討など、国として JR ローカル線が適切に維持され、利便性の高い地域公共交通サービスが確保される仕組みを構築すること。

5 やむを得ず地域が主体的に鉄道事業を再構築する場合の新たな制度の構築

やむを得ず現在の枠組みでは鉄道を維持することが困難な場合、地域の発意により府県及び市町村が鉄道事業者と連携し、上下分離方式をはじめとする路線維持ができるような導入基準や財政支援など、国において新たな制度を構築すること。

なお、導入基準の設定にあたっては、地域の実情に応じた内容となるよう、地域の意見を聞きながら制度を構築すること。

また、地元合意を経てバス転換等を行う場合には、必要に応じ鉄道事業者が鉄道敷等を自治体に無償譲渡するなど、地元自治体の負担とならないよう円滑に再構築できる仕組みを構築すること。

令和4年8月

近畿ブロック知事会

福井県知事	杉 本 達 治
三重県知事	一 見 勝 之
滋賀県知事	三日月 大 造
京都府知事	西 脇 隆 俊
大阪府知事	吉 村 洋 文
兵庫県知事	齋 藤 元 彦
奈良県知事	荒 井 正 吾
和歌山県知事	仁 坂 吉 伸
鳥取県知事	平 井 伸 治
徳島県知事	飯 泉 嘉 門